琉球大学学術リポジトリ

復帰準備2

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-01-29 キーワード (Ja): 復帰準備, 沖縄の諸制度, 沖縄復帰準備委員会 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43399

鳥田（防杠施設庁長官）、屋良会郡、

アメリカ局長

参事官

北米オ一課長

秘 無期限

第 471 号

昭和 46 年 8 月 12 日

外務大臣 殿

在準備委代表事務所
高瀬代

(件名)

島田防衛施設庁長官と屋良主席との会談

引用公・電信 日付・番号 8月7日付 往電第854号

標記の会談記録別添送付する。

付属添付 ☐ 付属空便(行) ☐ 付属空便(DP) ☐ 付属船便(貨) ☐ 付属船便(郵) ☐

本信送付先:
本信写送付先:
省内写配布希望先:

GA-3-1 在外公館

秘

46.8.5 鈴木

島田防衛施設庁長官と
屋良主席との会談記録

1. 日時 8月5日 13時30分 — 14時50分

2. 場所 主席公社

3. 立会者 施設庁安斉労務部長, 銅崎沖縄対策本部長, 事務局谷口次長, 近藤施設企画課長, 鈴木調査官

4. 内容

屋 人事問題でごたごたしてお恥かしい。人事問題は非常に難しい。25年の格差, 物の見方の違いがあり苦労する。基地等に対する考え方にも機微なものがあり, そうまでしなくてもと言っても簡単には行かない。

GA-4 外務省

青ガス問題にも参っている。前回150トンを片づけるのにも参った。一つには経験を持たぬことが原因だと思う。弁務官には知らぬ間に出してしまえばよかったと話すのだが。現在半分位い出ている。

昨日のレセプションにも出られず失礼した。

島　今回私が~~後~~来たのは百~~分~~聞一見に如かずということで――。あまり日時がないので充分に見るわけには行かなかったが一通りは見た。返還協定で88ヶ所の施設の提供が決っている。これについては土地問題を片付けて行かねばならぬ。3万7千人の地主の1人1人と契約を締結し、合意を取付けて使用権を取得し、米国提供~~に達せねば~~ならぬ。これは大変な作業で、境界の確認、使用条件

決定、一部返還する施設の境界の~~確認~~決定、水道、電力、道路等施設外になるものの仕分け等ひとつひとつ当って行く。基地の中についても面積を決めたり境界を決めたり確認をする必要があるが、これも一部しかできていない。この中でも地主との話し合いで借料を決めて行かねばならない。連合会は借料を5.77倍にすることを要求している。現在~~が~~軍が支払っている借料は34億円だが、宅地、田畑、山林等の地目につき再検討し、地主連合会~~は~~と~~の話し合い~~数字をつき合せて話し合いを行なって行く。

現在浴口次長の下に20人の職員がいるがこれだけではどうにもならない。人を増やして協議、現地確認、資料収集等を行なって

行く。復帰時点では防衛施設局を設置する。これは土用にあるものにしても最大の規模になるものと思う。基地の周辺対策、補償問題も解決して行かねば、復帰前にも人を派遣して行く。

労務問題については、本土と同じく復帰と同時に日本政府が雇用し、軍に提供することとなる。給与その他の労働条件を本土と合せ、労働組合とも協議して行かねばなるまい。間接雇用制度は国が雇って米軍に提供するか、雇い入れ、労務管理、給与の支払い等の事務は県に依頼する。このため主務課、労務管理事務所を設置して動く。復帰前に人員を集(もち)って給与の支払等の事務能力をつけてもらう必要がある。当初基幹

雇員30人に対して御説明をし、この方々が沖縄に帰って他の職員の募集に当る。規模は250人ぐらい。復帰の翌月から給与の支払も開始することとなる。

屋　土地関係の人数はどれぐらいか。

島　土地については施設局が直接やることとなる。

銅崎　施設局についても国政に廻る琉政職員の方々に来てもらいたい。

屋　間接雇用については準備がされることとなるが局の中に置くのか。

島　労務は局と直接関係ない。

安斉　琉球政府の中で政府職員にやって貰く

屋　現在労働局海外労働課に11名しかいない。
これは解雇に対する手当の支払い等をやっているが、その強化ということになる。

島　本土の各府県のベテランが来てやる方法もある。

屋　準備するにしてもどういう事になっているか。
労働局長と話しをしたが、まだ具体的になっていないという事だった。

安斉　労働条件、給与条件は軍、組合と話し合い本土なみに切替えることとなる。事務的な取扱いは今からでも分っているので準備は始められるが、事前に人を集めてくるのが難しいと聞いている。

島　労働局だけではどうにもならない。問題だ。~~総務局~~

屋　具体的にはどうにも雲をつかむような話だ。どうしたらよいのか。現在琉政では国、県、市町村事務が錯そうしている。欠員の補充もできない状態だ。急に補充することは難しい。どういう風にして行けばよいか。予算の関係もある。

島　予算の関係は、後帰後は施設庁が計上し県にわたすことができる。後帰前は施政の予算として後帰対策費に計上してある。人件費は全体のドンブリの使い方のやりくりだと聞いている

屋　労働局長が心配しているのはそれだ。

島　後帰までに職員の教育をしておかねばならぬ

屋　現在でも労働問題は複雑だ。労働局長もフーフー言っている。

島　人の問題は他部局から人を廻しても同じ人件費だ。研修旅費、事務費は計上してある。

屋　事務所は新しく作らねばならぬ。沖縄の場合は1ヶ所という訳には行かない。

安斉　1ヶ所乃至3ヶ所と色々な案があるが最低2ヶ所は必要だろう。人数についても色々な案がある。細かい話は鈴木が担当しているので今後つめて行く。ドンブリ予算をどう廻すかが問題だ。

屋　増員をせずに今居るものからということは非常にあぶない話だ。各局から集めてくるにしても現在各局でやっている仕事を集中するわけではないので難しい。よく聞いてみなければ(わか)ならぬ。

島　総務局が関係する。

屋　各局は人員の問題で総務局とケンカばかりしてる。総務局として各局に命ずることができるか。各局が聞くかどうか。大変な問題になる。人数はどれ位いか。

安角　後帰の時点までに段階的に増員して約250人。後帰後はそのまま行く。

屋　県になった段階では動かせる。後帰前に250人というのは大変だ。

安　基幹要員は手当がついたと聞いている。その後の割り振りを早目にお願いしたい。

屋　ものすごいケンカになる。

島　私の方でも沖縄関係の定員は全部で45名しか認められていない。しかし来月からでも大幅に増員したいと思っている。このため本土の仕事の能率が下るのもやむを得ない。

屋　他局から人員を廻して今の問題をどう消化して行くかが問題だ。

島　主席の御配慮をお願いしたい。

屋　県になればといかく、各局の仕事が減って行くというのなら別だが。

島　研修の段階では全員を必ずしもハリツケにする必要もない。仕事をしながら一定時間研修を受けるという方法もある。

安斉　それは可能だ。しかしそういう事で身が入るかどうか。ハリツケが望ましい。

屋　給与体系が変って行くことになるか。

島　早急に米側と交渉をやる。

屋　沖縄には基地に対する強い反対がある。困っている問題が基地から発生しているので、例えば青ガス、労務者の解雇問題等必要以上に悩まされている。一方では基地依存経済

の問題もある。

島　この問題は程度の差はあるが本土にもある。例えば三沢。

屋　同じ基地といっても本土と機能、程度が違う。日本の実法及ばない国に外国の軍隊がいる。色々苦しめられる。

機微なる所を受取ってやってほしい。

島　現実を直視して調整をお願いしたい。

屋　間接雇用にしてもこれ以外に道はないということは理解している。よく皆に理解せしめる必要がある。復帰という政治的な問題が解決

してもそれに伴なう問題がある。たとえば
復元補償の問題。土地が返ってきても直ちに
生活に結びつけない。返すだけでは何もならない。
沖縄の将来の開発にしても産業立地を考
えては急には何もできない。基地が変ぼう
するたびに大きな影響を受ける。
請求権の問題も国がやると言っているが
何とかしてもらわねばならない。
土地問題も米軍が接収前の地目で倍料
を払っているので不満が多い。

谷口　本土では周辺の開発状況により、地目山林
であっても宅地並みの倍料を払っている。

島　労務問題は今後も話し合いを続けていきたい。

主席の力で何とか。
給与条件、労働条件はわれわれと米軍、全
軍労とやっていくので迷惑はかけない心算だ。
後の事務処理をよろしくお願いしたい。
事務的には今後も労働局と相談して行きたい。

屋　これは大事な問題だ。基地労働者に安定感
を与えるためには必要だ。
3種、4種の問題はどうか。

安脩　3種はいないと聞いている。4種が多い。今後の
問題だ。

島　土地の問題については土地連とやるが、主席
の側面からの援助を得たい。

屋　組織的運動体が基地の契約に反対している動きもある。私としては実際にあるものを反対すればよいのかと言う所で考える。書かス問題も阻止するという。責任のない責任を痛感している。

島　これから2,3年が大事だ。

屋　私も食糧くじを引いたと思う。好むと好まぬにかかわらず事実は事実としてどう乗り切るかが大事だ。しかしあまりやると又やられる。(笑)　困難とは思うがやって行かなければならぬ。

島　1昨日ランバートさんとお会いした。土地、分務

の問題を彼も心配している。彼も全面的協力を約束してくれた。といかく残された時間がないので。

屋　彼はいい人だ。こういう時期だからあのような人をよこしたのだと思う。

(3)